

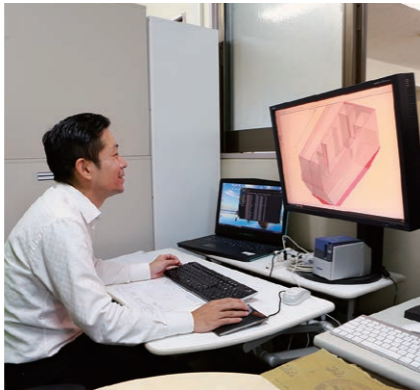
会員企業探訪

優れた加工技術と
精緻な
設計開発力で
革新の包装技術を提供

大昌株式会社 代表取締役社長 下手 将人



松江湖南テクノパーク内にある社屋と工場。
受注から設計・製造をスムーズに行う



お客様の細かな要望にも、
柔軟さと速さもって対応



①前輪のみを外し
コンテナに納める



②隙間を埋め、
自転車を固定させる



③蓋をして
バンドで封をする

SBCONの利用で飛行機&自転車の旅を

経営理念

ありがとうの創造
「つながるをかたちにする」を事業コンセプトに、
社業を通じて関わるすべての方から感謝される
楽しく持続的な会社を創る。

松江湖南テクノパークに本社を置く大昌株式会社。本年9月の「2019日本パッケージングコンテスト」(日本包装技術協会主催)において日本商工会議所会頭賞を受賞したことで、話題となった梱包資材加工製造メーカーである。受賞したのは「SBCON」という航空機用自転車専用輸送ボックス。日本航空株式会社、一般社団法人せとうち観光推進機構、合同会社S-IWORKSが共同開発し、大昌株式会社が受託生産したもので、同社の設計開発力と加工技術が高く評価されての受賞だ。社長の下手将人さんは「本業以外の時間も充て試行錯誤を重ね、最高の結果に結びついた。全社員でつた賞です」とよろこぶ。

創業は昭和32年。本格的なモーターゼーション社会の到来を受け、物流の梱包材も木材から紙へと大きく転換しようとする時代に、山陰では先発となるダンボール加工事業に着手。創業からしばらくは一進一退の経営が続いたが、経済成長の後押しもあり地元農業機械メーカー、進出してきた電子部品メーカーなどからの需要を取り込み事業を拡大。平成6年に株式会社へ組織変更し、現在ではダンボールなどの紙器製品の他、プラスチックダンボール製品、化成品や樹脂成型品、粘着テープ、フィルム類の設計・加工販売を行う。

下手さんが社長に就任したのは5年前。40歳の若さでの起用だった。それこの輸行袋に代わるもので分解しなくても済むものがあればもっと便利になると見ている。「設計開発については、まず分解が少ないこと、そして飛行機の貨物庫にぴったり納まるコンパクトさ。この二点をクリアすることが課題でした」と下手さんはいう。

飛行機の貨物庫は側面が丸くなっており四角い箱状では入らない。自転車を実際に入れた箱でどの面をカットすればうまく納まるかミリ単位の検証が続き、複雑な面構成を持つ多面体が生まれた。材質はプラスチックダンボール。強度があり、しかも軽量。前輪をはずすだけという簡易な分解にとどめたことも評価された。加工においては取り扱い時のケガを防ぐために、手のかかるところに折り返しをつけて圧着した。プラスチックダンボールの切り口が鋭いための一工夫だ。「これまでなかったものをカタチにしたことが受賞の理由だと思いますが、私としてはわが社の設計技術力を表に出せたことがいちばんの成果。今回の取り組みでまたひとつ設計力が上がったと自負しています」という。

時代のニーズに即した事業展開を進める

創業62年。つねに顧客の持ち込んでくる部品や工業製品と真摯に向き合い、いかに効率よく紙器に納めるかを考えてきた。200キロ近くもある

まで経理や顧客対応に当たる業務部を中心に活躍し、就任前には営業も経験した。

「現在、売上げの4割はダンボールですが、定番品はもとより、新規のもの、規格変更にもスピーディーに対応できるように長年かけて社内体制を整えてきました。わが社では設計開発のセクションが営業部の中にあり、顧客へのレスポンスが早い。試作品等も短時間で仕上げるができます」という。

また近年はパッキン材、クッション材など工業用化成品、成型品にも注力し、好調な業績を支える柱となっている。最新の3DCADとカッティングマシンを使用し、あらゆる形状の小ロット加工を可能としたことも要因の一つで、木型・金型なしで、様々な素材を裁断・加工できるという。今回、受賞に至ったのも、こうした素地があったからといえよう。

「SBCON」は いかに誕生したか

近年旺盛なインバウンド観光を取り込もうと全国各地で様々な取り組みが行われている。瀬戸内エリアではインバウンド客に人気の高いサイクリング旅行をしまなみ海道を舞台に展開するが、インバウンド客の中には愛用の自転車で走りたいというニーズも多い。自転車の空輸には輸行袋があるが収納する際の自転車の分解が負担だった。

シートジャケット、大型の冷凍庫や冷蔵庫、車の車載用品等の包装資材を数々考案してきた実績がある。最近物流コストの高騰をうけ、箱自体のサイズ変更やパレットに詰める数を増やすなど、省コストを意識してのオーダーも増えてきたという。そうした中、環境への意識も高まっていると下手社長はいう。

「現在は廃棄プラスチック問題もあり、今後はもっと紙が活かされる時代になる。しかし耐水性、耐火性、強度などクリアすべき課題もたくさんあります。私たちは今、新しい機能性を紙に付与できるような様々な材料で研究を重ねている最中で、例えば災害時にも役に立つものは何かなど、環境をテーマに取り組んでいます」

避難所で活用できる製品やイベント時に活躍する紙製の軽量な什器、立礼棚、大型迷路など梱包以外の分野でも活用できるアイデアを広げていきたいとも語ってくれた。



■大昌株式会社
〒699-0203 島根県松江市玉湯町布志名767-51
TEL0852-22-2665 FAX0852-27-1528
[web] http://daisho-d.co.jp/
[MAIL] info@daisho-d.co.jp
[Facebook] https://www.facebook.com/daisho.p.m/